
三菱重工、冷熱事業強化へ2子会社を統合

Edited By LogisticsToday On 2014/07/18

三菱重工業は18日、冷熱事業販社の三菱重工冷熱（東京都品川区）と、暖房機を手掛けるクサカベ（荒川区）の2社を10月1日付で統合すると発表した。両社の販売網を共通化して営業力を高めることにより、冷熱事業の強化につなげる狙い。

両社はともに三菱重工の100%子会社で、重工冷熱は空調機（家庭用エアコン、業務用エアコン）、暖房機、冷凍・冷蔵製品、大型冷凍機、周辺機器の販売・据付・サービスを、クサカベは暖房機の製造・販売・据付・サービスを展開している。クサカベの暖房機事業は、学校向けなどの官公需に加え、工場向けなどの民需でも販売実績がある。

統合による新会社は、資本金4億円で、重工冷熱を存続会社として同じ会社名で発足する。

同社は昨年10月、空調機と大型冷凍機の販社2社を統合して重工冷熱を発足させ、営業・サービス機能の強化をはかるとともに、市場が拡大しているヒートポンプやチラーなどの中間ゾーン商品も一体営業や保守サービスも含めたソリューションビジネスの拡充などに取り組んでいる。

重工冷熱は、クサカベとの統合により、暖房機事業の強化にも取り組み、昨年の統合で広がった販売網を活用して暖房機の拡販を図る。併せて、クサカベが暖房機の販売で開拓してきた官公需ルートでも、ヒートポンプやチラーなどを積極的に拡販することで、統合の相乗効果を追求する。

Article printed from Logistics Today | 国内最大の物流ニュースサイト : <http://www.logi-today.com>

URL to article : <http://www.logi-today.com/116738>

Copyright © 2020 Logistics Today | 国内最大の物流ニュースサイト. All rights reserved.